FOMA® D703i

データ通信マニュアル

■ データ通信マニュアルについて
本マニュアルでは、FOMA D703iでデータ通信をする際に必要な事項についての説明をはじめ、CD-ROM内の「D703i通信設定ファイル（ドライバ）」「FOMA PC設定ソフト」のインストール方法などを説明しています。

■ Windowsの操作について
本マニュアルは、Windows XP Service Pack 2に対応した内容となっております。
お使いの環境によっては操作手順や画面が一部異なる場合があります。

データ通信について

FOMA 端末から利用できるデータ通信の形態や利用時の留意点について説明します。

- FOMA 端末は FAX 通信や Remote Wakeup には対応していません。
- FOMA端末をドコモのPDA「musea」「sigmarion Ⅱ」「sigmarion Ⅲ」と接続してデータ通信を行えます。musea、sigmarion Ⅱを利用する場合は、アップデートが必要です。アップデートなどの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。
- 本 FOMA 端末は IP 接続に対応しておりません。

FOMA 端末から利用できるデータ通信について

FOMA 端末の通信形態は、パケット通信、64K データ通信、データ転送の 3 つに分類されます。
これらの通信は、付属の CD-ROM から関連ソフトをパソコンにインストールし、FOMA 端末とパソコンを接続して各種設定を行うと利用できます。

■ パケット通信

パケット通信は送受信したデータ量に応じて課金されるので、メールの送受信など、比較的少ないデータ量を高速で送受信するのに適しています。ネットワークに接続していても、データを送受信していないときには通信料がかからないので、ネットワークに接続したまま必要なときにデータを送受信するという使いかたができます。
ドコモのインターネット接続サービス mopera U / mopera など、FOMA のパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、受信最大384kbps、送信最大64kbpsの高速パケット通信が可能です。通信環境や混雑状況の影響により通信速度が変化するベストエフォートによる提供です。
画像を含むホームページの閲覧、データのダウンロードなどデータ量の多い通信を行った場合、通信料が高額になりますのでご注意ください。

■ 64K データ通信

64Kデータ通信は64kbpsの安定した通信速度でデータ送受信できます。データ量に関係なく、ネットワークに接続している時間の長さに応じて課金されるので、マルチメディアコンテンツのダウンロードなど、比較的データ量の多い送受信を行うのに適しています。ドコモのインターネット接続サービス mopera U / mopera など、FOMA 64K データ通信に対応したアクセスポイント、または ISDN 同期 64K アクセスポイントを利用します。
長時間にわたる通信をした場合、通信料が高額になりますのでご注意ください。

■ データ転送

電話帳やメール、ブックマークなどの各種データを転送／交換する、課金が発生しない通信形態です。

- 赤外線通信でも、他の FOMA 端末や携帯電話、パソコンなどとデータ転送できます。

ご使用になる前に

動作環境について

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は、以下のとおりです。

項　目	必要環境
パソコン本体※1	PC/AT 互換機
OS ※2	Windows 2000、XP(各日本語版)
必要メモリ	Windows 2000：64MB 以上 Windows XP：128MB 以上
ハードディスク容量	5MB 以上の空き容量

※ 1：USB ポート（USB 仕様 1.1/2.0 に準拠）が必要です。
※ 2：OS アップグレードからの動作は保証対象外です。

おしらせ

● 動作環境によってはご使用になれない場合があります。また、上記の動作環境以外でのご使用やOSアップグレードによる問い合わせおよび動作保証は、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

警告画面が表示された場合

付属の CD-ROM をパソコンにセットすると、下記のような警告画面が表示される場合があります。この警告は、Microsoft Internet Explorer のセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。
[はい] をクリックしてください。

- 画面は Windows XP を使用した例です。お使いのパソコンの環境により異なる場合があります。

必要な機器について

FOMA端末とパソコン以外に以下のハードウェア、ソフトウェアを使います。

- FOMA USB接続ケーブル（別売）またはFOMA充電機能付USB接続ケーブル 01（別売）
- 付属のCD-ROM「FOMA D703i用CD-ROM」

おしらせ

● USBケーブル※1は専用の「FOMA USB接続ケーブル」または「FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 01」をお買い求めください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。

※1：本書では、FOMA USB接続ケーブルの場合で説明しています。

ご利用時の留意事項

インターネットサービスプロバイダの利用料について

パソコンからインターネットを利用する場合は、通常ご利用になるインターネットサービスプロバイダ（以降、プロバイダ）に対する利用料が必要です。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に直接プロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。

- ドコモのインターネット接続サービスmopera U / moperaをご利用いただけます。mopera Uは、お申し込みが必要（有料）です。ブロードバンド接続などに対応し、使用した月だけ月額使用料がかかるプランもございます。また、moperaは、お申し込み不要、月額使用料無料です。今すぐインターネットに接続できます。利用料などの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

接続先（プロバイダなど）の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときはFOMAのパケット通信に対応した接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。

- PIAFSなどのPHS64K／32Kデータ通信やDoPaのアクセスポイントには接続できません。

ネットワークアクセス時のユーザー認証について

接続先によっては、接続時にユーザー認証（IDとパスワード）が必要な場合があります。その場合は、通信ソフトまたはダイヤルアップネットワークでIDとパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードはプロバイダまたは社内LANなど接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳しい内容については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

パソコンのブラウザを利用してのアクセス認証について

FirstPass（ユーザー証明書）の認証を行う場合は付属のCD-ROMからFirstPass PCソフトをインストールし、設定してください。詳しくは付属のCD-ROM内の「簡易操作マニュアル（FirstPassManual.pdf）」をご覧ください。

パケット通信および64Kデータ通信の条件

FOMA端末で通信を行うには、次の条件が必要です。

- FOMA USB接続ケーブル（別売）を利用できるパソコンであること
- FOMAサービスエリア内であること
- パケット通信の場合、接続先がFOMAのパケット通信に対応していること
- 64Kデータ通信の場合、接続先がFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64Kに対応していること

ただし、上記の条件が整っていても、基地局が混雑していたり、電波状況が悪かったりする場合は通信できないことがあります。

データ通信の用語集

● 管理者権限
Windows XP、2000を使用するときに、OSのシステムなどすべてにアクセスできる権限のこと。
1台のパソコンに最低1人は、パソコンの管理者権限を持つユーザーが設定されています。通常、パソコンの管理者権限がないユーザーは、ドライバ、ソフトなどのインストールおよびアンインストールができません。

● APN（Access Point Name）
パケット通信で接続するプロバイダなどを識別する文字列。mopera Uは「mopera.net」が、moperaは「mopera.ne.jp」がAPNとなります。

● cid（Context Identifier）
パケット通信の接続先（APN）をFOMA端末へ書き込むときの登録番号。FOMA端末では1から10までの10件が使えます。
お買い上げ時、cid 1には「mopera.ne.jp」、cid 3には「mopera.net」が登録されています。

● W-TCP
FOMA ネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IPの伝送能力を最大限に生かすためのTCPパラメータ。FOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、この通信設定が必要です。

データ通信の準備の流れ

パソコンと FOMA 端末を接続して、パケット通信または 64K データ通信を利用する場合の準備は次のような流れになります。

① 通信設定ファイルのインストール ☛P5
② パソコンと FOMA 端末の接続 ☛P4
③ 通信設定ファイルの確認 ☛P5

接続 ☛P23（切断 ☛P24）

通信設定ファイル（ドライバ）について

FOMA 端末をパソコンに接続してデータ通信を行うには、付属のCD-ROMから通信設定ファイルをインストールする必要があります。

FOMA PC 設定ソフトについて

付属のCD-ROMからFOMA PC設定ソフトをパソコンにインストールすると、FOMA 端末とパソコンを接続して、パケット通信または64Kデータ通信を行うために必要なさまざまな設定を、パソコンから簡単に操作できます。

インストール／アンインストール前の注意点

- 通信設定ファイルや FOMA PC 設定ソフトをインストール／アンインストールするときは、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザーで行ってください。それ以外のユーザーで行うとエラーになります。パソコンの管理者権限の設定操作については、パソコンの取扱説明書をご覧になるか、各パソコンメーカーやマイクロソフト社にお問い合わせください。
- 操作を始める前に、稼動中の他のプログラムがないことを確認してください。稼動中のプログラムがあった場合は、プログラムを保存、終了させた後に行ってください。

パソコンとFOMA端末を接続する

パソコンとFOMA端末は、電源が入っている状態で接続してください。

- 接続前に必ず通信設定ファイル（ドライバ）をインストールしておいてください。☛P5

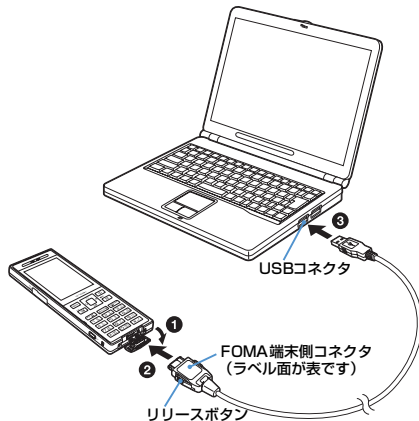
接続のしかた

FOMA USB接続ケーブル（別売）を使って接続します。

❶ **FOMA端末の外部接続端子の端子キャップを開く**

❷ **FOMA USB接続ケーブルのFOMA端末側コネクタを、「カチッ」と音がするまでFOMA端末の外部接続端子に差し込む**

❸ **FOMA USB接続ケーブルのパソコン側コネクタを、パソコンのUSBコネクタに差し込む**

- パソコンとFOMA端末を接続すると、FOMA端末の画面に[USBアイコン]が表示されます。通信設定ファイルのインストール前には[USBアイコン]は表示されません。
- 通信設定ファイルのインストール前に接続すると、新しいハードウェアの検出ウィザード画面が表示されます。その場合は、FOMA端末を取り外し、ウィザード画面で［キャンセル］をクリックして、終了してください。

■ **取り外しかた**

パソコン側コネクタはそのまま引き抜きます。FOMA端末側コネクタは、必ずリリースボタンを押しながら水平に引き抜いてください。無理に引っ張ると故障の原因となります。

充電しながら接続する

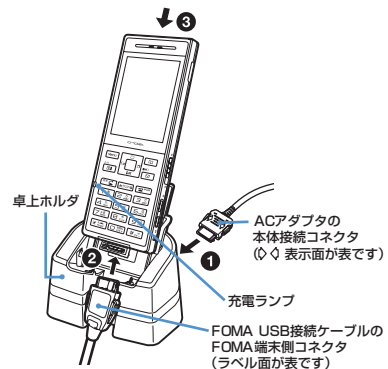
卓上ホルダ（別売）を使って充電しながら接続できます。ただし充電時間が長くなります。

❶ **卓上ホルダとACアダプタを接続する**

- ACアダプタはコンセントに差し込んでおいてください。

❷ **FOMA端末とFOMA USB接続ケーブルを接続する**

❸ **卓上ホルダに沿ってFOMA端末を図のような角度で差し込む**

- FOMA端末を差し込むときは、FOMA USB接続ケーブルを手前に引き出してください。
- 充電ランプが赤く点灯したことを確認してください。

おしらせ

- データ通信中にFOMA USB接続ケーブルを取り外したり、FOMA端末および卓上ホルダに衝撃を与えないでください。充電やデータ通信の切断、パソコンやFOMA端末の誤動作や故障、データ消失の原因となります。
- データ通信中に充電を開始した場合、充電が完了しない場合があります。充電を完了させたい場合は、データ通信を終了してから充電することをおすすめします。

通信設定ファイル（ドライバ）をインストールする

通信設定ファイルをインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P3

- FOMA 端末は操作 1 ～ 5 を行った後にパソコンに接続してください。

例 Windows XP の場合

1 付属の CD-ROM をパソコンにセット

「FOMA D703i CD-ROM」画面が表示されます。

- 「FOMA D703i CD-ROM」画面が動作する推奨環境は Microsoft Internet Explorer6.0 以降です。
  お使いのパソコンが推奨環境を満たさないときや、CD-ROM をセットしても「FOMA D703i CD-ROM」画面が表示されない場合は次の手順で操作してください。
  ① [スタート] →「ファイル名を指定して実行」をクリック
  ②「名前」に「<CD-ROM ドライブ名>：￥USBDRIVE￥D703iin.exe」を入力 ▶ [OK] をクリック ▶ 操作 5 に進む

2 [データリンクソフト・各種設定ソフト] をクリック

3 「D703i 通信設定ファイル（ドライバ）」の「インストール」をクリック

4 「D703iin.exe」をダブルクリック

5 [インストール開始] をクリック

FOMA D703iをパソコンに接続する旨の画面が表示されます。

6 FOMA端末をパソコンに接続する☛P4

通信設定ファイルがインストールされます。

- FOMA 端末は電源が入った状態で接続してください。

7 [OK] をクリックする

- 「FOMA D703i CD-ROM」画面に戻るには Microsoft Internet Explorer の［戻る］をクリックします。
- 「通信設定ファイルを確認する」に進み、インストールされたデバイス名を確認してください。

おしらせ

- インストールには数分かかることがあります。
- Windowsを再起動する旨の画面が表示されたときは、画面の指示に従い、再起動してください。
- 通信設定ファイルのインストール前にパソコンとFOMA端末を接続すると、自動的に別のドライバがインストールされる場合があります。その場合、操作2でアンインストールする必要がある旨のメッセージが表示されます。画面の指示に従ってアンインストールしてから通信設定ファイルをインストールしてください。

通信設定ファイルを確認する

FOMA 端末がパソコンに正しく認識されない場合、設定および通信はできません。

例 Windows XP の場合

1 [スタート] →「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」をクリック

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

■ **Windows 2000 の場合：**
  ① **[スタート] →「設定」→「コントロールパネル」をクリック**
  ② **「システム」をダブルクリック**

2 [ハードウェア] タブをクリック ▶ [デバイスマネージャ] をクリック

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

つづく▶

3 各デバイスの種類をダブルクリック▶インストールされたデバイス名を確認する

次表のデバイス名がすべて表示されることを確認します。

デバイスの種類	デバイス名
USB（Universal Serial Bus）コントローラ	FOMA D703i
ポート(COMとLPT)	• FOMA D703i Command Port（COMx）※1 • FOMA D703i OBEX Port（COMx）※1
モデム	FOMA D703i

※1：COMxのxはお使いのパソコンによって異なります。

通信設定ファイルをアンインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P3
アンインストールをする前に、必ずパソコンからFOMA端末を取り外してください。

例 Windows XPの場合

1 [スタート]→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」をクリック

「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。

■ Windows 2000の場合：
① [スタート]→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
②「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック

2 「FOMA D703i USB」を選択▶[変更と削除]をクリック

3 プログラム名を確認して[はい]をクリック

通信設定ファイルがアンインストールされます。

4 [OK]をクリック

おしらせ

● インストールに失敗したとき、または「プログラムの追加と削除」画面に「FOMA D703i USB」が表示されていないときは、付属のCD-ROMをパソコンにセットし、「FOMA D703i CD-ROM」画面の[データリンクソフト・各種設定ソフト]→「D703i通信設定ファイル（ドライバ）」の「インストール」をクリックして通信設定ファイルをアンインストールしてください。

FOMA PC設定ソフトを利用して通信する

FOMA端末をパソコンに接続してパケット通信や64Kデータ通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作で次の設定ができます。

■ かんたん設定
ガイドに従い操作することで、「FOMAデータ通信用ダイヤルアップの作成」を行い、同時に「W-TCPの設定」などを行います。

■ W-TCPの設定
「FOMAパケット通信」を利用する前に、パソコン内の通信設定を最適化します。通信性能を最大限に活用するには、「W-TCP設定」による通信設定の最適化が必要です。

■ 接続先（APN）の設定
「パケット通信」を行う際に必要な「接続先（APN）の設定」を行います。
FOMAパケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり、通常の電話番号は使用しません。あらかじめ接続先ごとに、FOMA端末にAPNと呼ばれる接続先名を設定し、その登録番号（cid）を接続先電話番号欄に指定して接続します。お買い上げ時、cid1には、moperaの接続先（APN）「mopera.ne.jp」が、cid3には、mopera Uの接続先（APN）「mopera.net」が登録されていますが、その他のプロバイダや社内LANに接続する場合は接続先（APN）の設定が必要になります。

FOMA PC設定ソフトをインストールする

- FOMA PC設定ソフトVersion 3.0.1より前の古いバージョン（以降、旧「FOMA PC設定ソフト」）がインストールされている場合には、あらかじめ旧「FOMA PC設定ソフト」をアンインストールしてください。バージョンは、FOMA PC設定ソフトの「メニュー」→「バージョン情報」で表示できます。
- お使いのパソコンに、本機種より前に発売されたFOMA端末に付属の「W-TCP環境設定ソフト」や「FOMAデータ通信設定ソフト」がインストールされている場合は、それらのソフトをアンインストールしてください。
- FOMA PC設定ソフトを再インストールする場合は、あらかじめインストール済みのFOMA PC設定ソフトをアンインストールしてください。
- 操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P3

つづく▶

例 Windows XP の場合

1 付属の CD-ROM をパソコンにセット

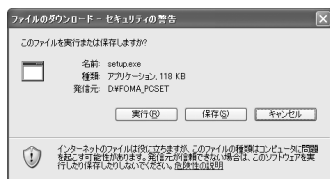
「FOMA D703i CD-ROM」画面が表示されます。

- 「FOMA D703i CD-ROM」画面が動作する推奨環境は Microsoft Internet Explorer6.0 以降です。
  お使いのパソコンが推奨環境を満たさないときや、CD-ROM をセットしても「FOMA D703i CD-ROM」画面が表示されない場合は次の手順で操作してください。
  ① [スタート] →「ファイル名を指定して実行」をクリック
  ②「名前」に「＜CD-ROM ドライブ名＞：￥FOMA_PCSET￥setup.exe」を入力 ▶ [OK] をクリック ▶ 操作 4 に進む

2 [データリンクソフト・各種設定ソフト] をクリック

3 「FOMA PC 設定ソフト」の「インストール」をクリック

「インストール」をクリックすると、下記のような警告画面が表示される場合があります。この警告は、Microsoft Internet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。

- **「ファイルのダウンロードーセキュリティの警告」画面が表示された場合**
  [実行] をクリックしてください。

- **「Internet Explorer ー セキュリティの警告」画面が表示された場合**
  [実行する] をクリックしてください。

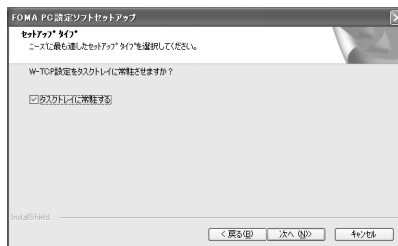
4 [次へ] をクリック

FOMA PC設定ソフトの使用許諾契約が表示されます。

5 内容を確認の上、契約内容に同意する場合は [はい] をクリック

6 「タスクトレイに常駐する」が選択されていることを確認して [次へ] をクリック

セットアップ後、タスクトレイに「W-TCP 設定」が常駐します。

- 「W-TCP 通信」の最適化の設定／解除を行うときに使用しますので（☞P14）、常駐をおすすめします。
- インストール後に常駐の設定は変更できます。

7 インストール先を確認して [次へ] をクリック

8 プログラムフォルダのフォルダ名を確認して [次へ] をクリック

9 [完了] をクリック

FOMA PC 設定ソフトが起動します。

- このまま各種設定を始められます。

つづく▶

おしらせ

- インストールの途中で［キャンセル］や［いいえ］をクリックしたときは、インストールを中断する確認画面が表示されます。インストールを継続する場合は［いいえ］をクリックしてください。中断する場合は［はい］をクリックし［完了］をクリックしてください。

かんたん設定でパケット通信を設定する

設定はFOMA端末をパソコンに正しく接続してから行ってください。☛P4

FOMA PC 設定ソフトを起動する

例 Windows XPの場合

1 ［スタート］→「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は、「プログラム」）→「FOMA PC設定ソフト」→「FOMA PC設定ソフト」をクリック

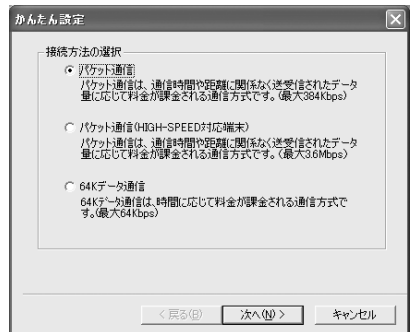
FOMA PC設定ソフトが起動します。

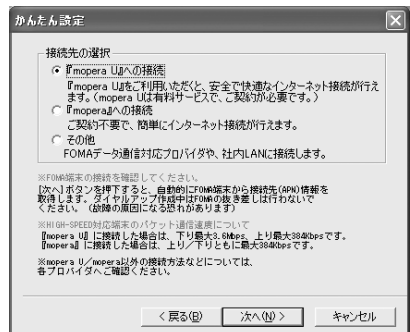
mopera U / mopera を利用する場合

- その他のプロバイダの場合☛P9

例 Windows XPの場合

1 FOMA PC設定ソフトを起動▶［かんたん設定］をクリック

2 「パケット通信」を選択▶［次へ］をクリック

3 「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択▶［次へ］をクリック

- mopera Uを選択したときは、ご契約の確認メッセージが表示されます。ご契約がお済みの場合は［はい］をクリックします。

4 「FOMA端末設定取得」画面で［OK］をクリック

FOMA端末から「接続先（APN）情報」を取得します。しばらくお待ちください。

つづく▶

5 任意の接続名と各項目を設定 ▶ ［次へ］をクリック

- 次の半角記号は入力できません。
  ¥/: ∗ ?!<> | ”
- ご利用の端末に合わせて接続方式を選択してください。本端末は PPP 接続にのみ対応していますので、「PPP 接続」を選択してください。
  - ・ mopera U は PPP 接続、IP 接続ともに対応しています。
  - ・ mopera は PPP 接続のみに対応しております。
- ダイヤルアップ時に発信者番号通知をするかどうかを選択してください。mopera U および mopera 接続では発信者番号通知が必要です。

6 各項目を設定 ▶ ［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」は空欄でも接続できます。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択すると Windows にログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

7 「最適化を行う」が選択されていることを確認して［次へ］をクリック

- 既に最適化されている場合、この画面は表示されません。

8 設定情報を確認して［完了］をクリック

9 ［OK］をクリック

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動します。再起動をする旨の画面が表示された場合は［はい］をクリックしてください。

- 既に W-TCP 設定が最適化されている場合は、再起動する必要はありません。
- 通信を実行する ☛P13

その他のプロバイダを利用する場合

- mopera U / mopera の場合 ☛P8

例 Windows XP の場合

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / mopera を利用する場合」の操作 1 〜 4 を行う ☛P8

- 操作 2 の接続方法は「パケット通信」を選択します。
- 操作 3 の接続先は「その他」を選択します。

つづく ▶

2 任意の接続名を入力▶［接続先（APN）設定］をクリック

- 次の半角記号は入力できません。
  ¥/: ＊ ?!<> ｜"
- 発信者番号通知の選択については、ご利用になるプロバイダの指示情報に従ってください。

■ 高度な設定（TCP/IPの設定）：
［詳細情報の設定］をクリックすると「IPアドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。
- ダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、プロバイダなどから提供された各種情報をもとにアドレスなどを登録してください。

3 接続先（APN）を設定

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」が、cid3には「mopera.net」が設定されています。cid2、4～10に接続先（APN）を登録してください。

① ［追加］をクリック

「接続先（APN）の追加」画面が表示されます。

② ご利用のプロバイダなどのFOMAパケット網に対応した接続先名（APN）と接続方式を設定▶［OK］をクリック

「接続先（APN）設定」画面に戻ります。
- 「接続先（APN）」には半角で、英数字、ハイフン（-）、ピリオド（.）のみ入力できます。
- 本端末はPPP接続にのみ対応していますので、「接続方式」は「PPP接続」を選択してください。対応する接続方式については、ご利用になるプロバイダに確認してください。

4 ［OK］をクリック

操作2の画面に戻ります。「接続先（APN）の選択」には、操作3で設定した接続先（APN）と接続方式が表示されます。

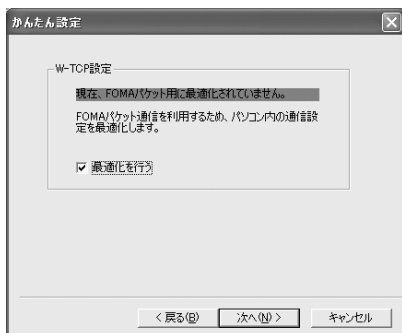
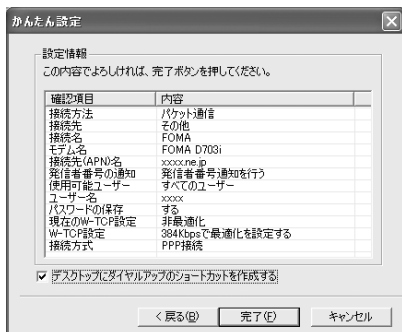
5 「接続先（APN）の選択」の接続先名（APN）を確認して［次へ］をクリック

6 ユーザー名とパスワードを入力▶［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」には、プロバイダなどから提供された各種情報を、大文字、小文字などに注意して入力してください。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

つづく▶

7 「最適化を行う」が選択されていることを確認して［次へ］をクリック

- 既に最適化されている場合には、この画面は表示されません。

8 設定情報を確認して［完了］をクリック

9 ［OK］をクリック

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動します。再起動をする旨の画面が表示された場合は［はい］をクリックしてください。

- 既に W-TCP 設定が最適化されている場合は、再起動する必要はありません。
- 通信を実行する ☛P13

かんたん設定で 64K データ通信を設定する

設定は FOMA 端末をパソコンに正しく接続してから行ってください。☛P4

mopera U / mopera を利用する場合

- その他のプロバイダの場合 ☛P12

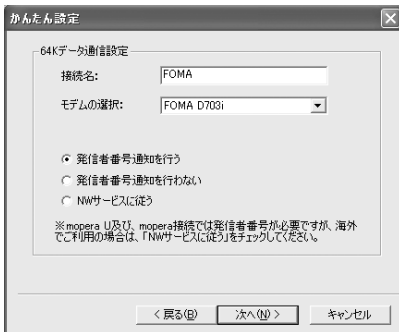
例 Windows XP の場合

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / mopera を利用する場合」の操作 1 ～ 3 を行う ☛P8

- 操作 2 の接続方法は「64K データ通信」を選択します。
- 操作 3 の接続先は「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択します。

2 任意の接続名と各項目を設定 ▶［次へ］をクリック

- 次の半角記号は入力できません。
  ¥/: ＊ ?!<> ｜ ”
- 「モデムの選択」が「FOMA D703i」に設定されていることを確認します。
- ダイヤルアップ時に発信者番号通知をするかどうかを選択してください。mopera U および mopera 接続では発信者番号通知が必要です。

つづく▶

3 各項目を設定 ▶ ［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

4 設定情報を確認して［完了］をクリック

5 ［OK］をクリック

- 通信を実行する ☛P13

その他のプロバイダを利用する場合

- mopera U / mopera の場合 ☛P11

例 Windows XP の場合

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / mopera を利用する場合」の操作 1 ～ 3 を行う ☛P8

- 操作2の接続方法は「64Kデータ通信」を選択します。
- 操作3の接続先は「その他」を選択します。

2 各項目を設定 ▶ ［次へ］をクリック

- 次の項目を登録します。
  - ・接続名　　　：任意
  - ・モデムの選択：FOMA D703i
  - ・電話番号　　：プロバイダなどから提供された情報をもとに入力
  - ・発信者番号通知の選択
    ：ご利用になるプロバイダの指示情報に従って選択

■ **高度な設定（TCP/IP の設定）：**
［詳細情報の設定］をクリックすると「IPアドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。
- ダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、プロバイダなどから提供された各種情報をもとにアドレスなどを登録してください。

3 ユーザー名とパスワードを入力 ▶［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」には、プロバイダなどから提供された各種情報を、大文字、小文字などに注意して入力してください。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindows にログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。

つづく ▶

4 設定情報を確認して［完了］をクリック

5 ［OK］をクリック

- 通信を実行する ☛P13

通信を実行する

FOMA PC設定ソフトで設定した通信の実行や切断について説明します。

例 Windows XP の場合

1 FOMA 端末とパソコンを接続する ☛P4

2 デスクトップの接続アイコンをダブルクリック

- アイコンはOSによって異なります。
- デスクトップに接続アイコンを作成しなかった場合は、スタートメニューから起動します。

■ Windows XP のスタートメニューから起動:
① [スタート] →「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック
②接続先をダブルクリック

■ Windows 2000のスタートメニューから起動:
① [スタート] →「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリック
②接続先をダブルクリック

3 各項目を確認して[ダイヤル]をクリック

- mopera U / mopera を選択した場合は「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。
- ご加入のプロバイダなどの指示により必要な場合は、入力指示情報をもとに「ユーザー名」「パスワード」を入力して［ダイヤル］をクリックします。
- OS によっては、接続完了画面が表示されることがあります。[OK] をクリックしてください。

■ 通信中の FOMA 端末画面
パケット通信を実行すると発信中画面、64K データ通信を実行すると呼出中画面がそれぞれ表示され、接続すると次の画面が表示されます。

おしらせ

- パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。
- データ通信を実行する場合、接続アイコン作成時のFOMA端末を接続した場合のみ有効です。
- D703i 以外の FOMA 端末を接続する場合は、ご利用になる FOMA 端末の通信設定ファイルをインストールする必要があります。

通信を切断するには

ブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作を行ってください。

例 Windows XP の場合

1 タスクトレイの をクリック

つづく▶

2 ［切断］をクリック

パケット通信の設定を最適化する

「W-TCP 設定」を利用してパソコンのパケット通信の設定を FOMA ネットワーク用に最適化します。「W-TCP 設定」とは FOMA ネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IP の伝送能力を最適化するための「TCP パラメータ設定ツール」です。FOMA 端末の通信性能を最大限に活用するには、この通信設定が必要です。

Windows XP の場合

ダイヤルアップごとに最適化できます。

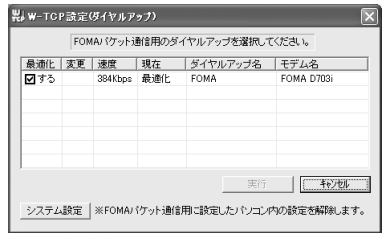
1 FOMA PC 設定ソフトを起動（☛P8）▶［W-TCP 設定］をクリック

■ タスクトレイから起動：をクリック

2 次の操作を行う

■ システム設定が最適化されていないとき：
次の画面が表示されます。

①「384Kbps」を選択し、［最適化を行う］をクリック
②最適化するダイヤルアップを選択▶［実行］をクリック
システム設定とダイヤルアップ設定のそれぞれの最適化が実行されます。

■ システム設定が最適化されているとき：
次の画面が表示されます。内容を変更する場合はチェック欄を変更し［システム設定］をクリックしてください。

3 画面に従ってパソコンを再起動

• 設定した内容は再起動後に有効になります。

Windows 2000 の場合

1 FOMA PC 設定ソフトを起動（☛P8）▶［W-TCP 設定］をクリック

■ タスクトレイから起動：をクリック

2 ［最適化を行う］をクリック

3 画面に従ってパソコンを再起動する

• 設定した内容は再起動後に有効になります。

最適化を解除する

• 64K データ通信を行う場合や、FOMA 端末以外で通信を行う場合は、最適化を解除してください。

Windows XP の場合

1 FOMA PC 設定ソフトを起動（☛P8）▶［W-TCP 設定］をクリック

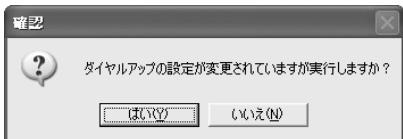
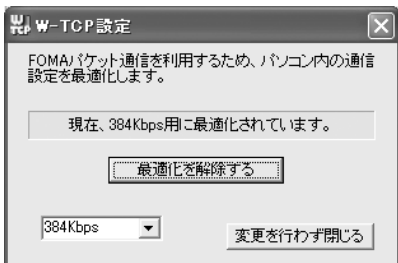
■ タスクトレイから起動：をクリック

2 最適化を解除する接続先のチェックを外す ▶［システム設定］をクリック

• 3.6Mbps 用に最適化されている場合は、接続先を個別に選択できません。［システム設定］をクリックしてください。

つづく▶

3 [はい] をクリック ▶ [OK] をクリック

• 384Kbps 用に最適化されている場合のみ表示されます。

4 [最適化を解除する] をクリック

384Kbps に最適化されている場合

5 [OK] をクリック

6 画面に従ってパソコンを再起動する

• 設定した内容は再起動後に有効になります。

Windows 2000 の場合

1 FOMA PC 設定ソフトを起動（☛P8）▶ [W-TCP 設定] をクリック

■ タスクトレイから起動：をクリック

2 [最適化を解除する] をクリック

3 画面に従ってパソコンを再起動する

• 設定した内容は再起動後に有効になります。

接続先（APN）を設定する

パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。

接続先（APN）は最大10件設定でき、登録番号（cid）の1～10に登録して管理します。

お買い上げ時、cid1 には「mopera.ne.jp」、cid3 には「mopera.net」が設定されています。

• 設定を行う前に FOMA 端末とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。☛P4
• mopera U / mopera 以外の接続先（APN）については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

例 Windows XP の場合

1 FOMA PC 設定ソフトを起動（☛P8）▶ [接続先（APN）設定] をクリック

「FOMA 端末設定取得」画面が表示されます。

2 [OK] をクリック

FOMA 端末に登録されている「接続先（APN）情報」を読み込みます。

3 接続先（APN）の設定を行う

■ 接続先（APN）を追加する：[追加] をクリック

■ 登録済みの接続先（APN）を編集または修正する：対象の接続先（APN）を一覧から選択 ▶ [編集] をクリック

■ 登録済みの接続先（APN）を削除する：対象の接続先（APN）を一覧から選択 ▶ [削除] をクリック

• cid1 と cid3 に登録されている接続先は削除できません（cid1 または cid3 を選択して [削除] をクリックしても、実際には削除されず、元に戻ります）。

■ ファイルへ保存する：「ファイル」→「名前を付けて保存」または「上書き保存」をクリック

• FOMA 端末に登録された接続先（APN）設定のバックアップを取ったり、編集中の接続先（APN）設定を保存するときに利用します。

■ ファイルから読み込む：「ファイル」→「開く」をクリック

• パソコンに保存された接続先（APN）設定を再編集したり、FOMA 端末に書き込んだりするときに利用します。

■ FOMA端末から接続先（APN）情報を読み込む：「ファイル」→「FOMA端末から設定を取得」をクリック

FOMA 端末に手動でアクセスし、登録された接続先（APN）設定を読み込みます。

■ FOMA端末へ接続先（APN）情報を書き込む：[FOMA端末へ設定を書き込む] をクリック

表示されている接続先（APN）設定が FOMA 端末に書き込まれます。

つづく▶

■ ダイヤルアップを作成する：

① 追加、編集された接続先（APN）を選択 ▶［ダイヤルアップ作成］をクリック

「FOMA 端末設定書き込み」画面が表示されます。

② ［はい］をクリック ▶ ［OK］をクリック

「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面が表示されます。

③ 任意の接続名を入力し、発信者番号の通知方法を選択 ▶［アカウント・パスワードの設定］をクリック

④ ユーザー名とパスワードを入力 ▶［OK］をクリック

- mopera U / moperaの場合は空欄でも接続できます。
- 「使用可能ユーザーの選択」で「すべてのユーザー」を選択するとWindowsにログオンできるすべてのユーザーがこの接続を利用できます。
- ご利用のプロバイダなどから、IP および DNS 情報の設定が指示されている場合は、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面で［詳細情報の設定］をクリックし、必要な情報を登録後、［OK］をクリックしてください。

⑤ ［OK］をクリック ▶ ［OK］をクリック

⑥ ［FOMA 端末へ設定を書き込む］をクリック

上書きするかどうかの確認画面が表示されます。

⑦ ［はい］をクリック ▶ ［OK］をクリック

おしらせ

- 接続先（APN）設定はFOMA端末に登録される情報のため、異なるFOMA端末（故障修理により交換された端末など）を接続する場合は、APNを登録し直してください。
- パソコンに登録されている接続先（APN）を継続利用する場合は、同じAPNの登録番号（cid）をFOMA端末に登録してください。

FOMA PC 設定ソフトをアンインストールする

操作の前に、必ず「インストール／アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P3

アンインストールを実行する前に

タスクトレイの［アイコン］を右クリックし、「常駐させない」をクリックして、「W-TCP 設定」の常駐を解除してください。

アンインストールする

例 Windows XP の場合

1 ［スタート］→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」をクリック

■ Windows 2000 の場合：

① ［スタート］→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

② 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック

2 「NTT DoCoMo FOMA PC 設定ソフト」を選択 ▶ ［削除］をクリック

3 削除するプログラム名を確認して［はい］をクリック

FOMA PC設定ソフトのアンインストールを開始します。

■ 「W-TCP 最適化」を解除する：

W-TCP が最適化されている場合は確認画面が表示されます。

- 通常は［はい］をクリックして、最適化を解除してください。
- 再起動の確認画面が表示されたら、今すぐ再起動するかどうかを選び［完了］をクリックします。
- 「W-TCP 最適化」の解除は、パソコンの再起動後に行われます。

4 ［完了］をクリック

FOMA PC設定ソフトを利用しないで通信する

FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信／64K データ通信のダイヤルアップネットワークの設定を行う方法について説明します。

設定操作の流れ

通信設定ファイルのインストール ☛P5
パソコンと FOMA 端末の接続 ☛P4

▼

接続先（APN）の設定
（64Kデータ通信の場合、パケット通信の接続先がmopera U / moperaの場合は、設定不要）

▼

発信者番号通知／非通知の設定 ☛P18
（必要に応じて設定）

▼

その他の設定（AT コマンド）☛P24
（必要に応じて設定）

▼

ダイヤルアップネットワークの設定

ご使用の OS	設定	
	接続先	TCP/IP
Windows XP	P19	P20
Windows 2000	P21	P22

• 設定内容の詳細については、プロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。

▼

接続 ☛P23（切断 ☛P24）

おしらせ

● 操作の途中で「既定の Telnet プログラムにしますか？」が表示された場合は、[はい] または [いいえ] をクリックしてください。

● 操作の途中で「所在地情報」画面が表示された場合は、所在地のダイヤル情報を設定し [OK] をクリックします。設定したダイヤル情報が「電話とモデムのオプション」画面に表示されますので [OK] をクリックしてください。

パケット通信の接続先（APN）を設定する

設定を行うには、AT コマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここでは Windows の「ハイパーターミナル」を使った設定方法を説明します。

お買い上げ時 cid1：mopera.ne.jp
cid3：mopera.net
cid2、4 ～ 10：未登録

例 Windows XP の場合

1 パソコンと FOMA 端末を接続する ☛P4

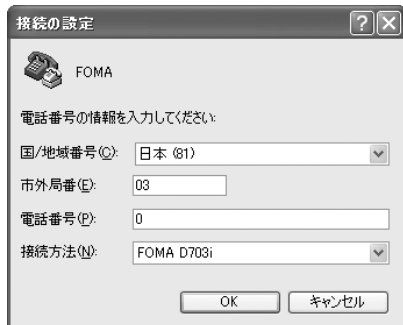
2 [スタート] →「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」をクリック

• Windows 2000 の場合は、「すべてのプログラム」が「プログラム」と表示されます。

3 「名前」に接続先名など任意の名前を入力 ▶ [OK] をクリック

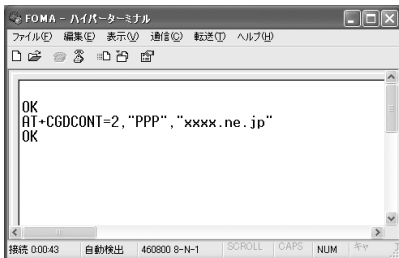
4 「電話番号」に実在しない電話番号（「0」など）を仮入力し、「接続方法」から「FOMA D703i」を選択 ▶ [OK] をクリック

• 市外局番は接続先（APN）の設定とは関係ありませんので、変更不要です。

つづく▶

5 接続画面が表示されたら［キャンセル］をクリック

6 接続先（APN）を入力▶↵を押す

- 「AT+CGDCONT＝＜cid＞,“PPP”,“APN”」の形式で入力します。

＜cid＞：2、4～10の任意の番号を入力します。
“PPP”：そのまま“PPP”と入力します。
“APN”：接続先（APN）を“ ”で囲んで入力します。

「OK」と表示されれば、接続先（APN）の設定は完了です。

■ 接続先（APN）設定をリセットするとき：
AT+CGDCONT=↵
すべてのcidをリセットします。
- ＜ cid ＞ =1 と 3 はお買い上げ時の設定に戻り、＜ cid ＞ =2、4 ～ 10 の設定は未登録になります。

AT+CGDCONT=＜ cid ＞↵
特定のcidをリセットします。

■ 接続先（APN）設定を確認するとき：
AT+CGDCONT?↵

■ ATコマンドを入力しても画面に表示されないとき：ATE1↵
- 詳細 ☛P27

7 「OK」と表示されていることを確認し、「ファイル」→「ハイパーターミナルの終了」をクリック

- 「現在、接続されています。切断してもよろしいですか？」の表示後に［はい］をクリックします。
- 「“XXX”と名前付けされた接続を保存しますか?」の表示後に［いいえ］をクリックします。

接続先（APN）と登録番号（cid）について

パケット通信の接続先（APN）は、FOMA端末の登録番号cid1～10に設定できます。お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3 には「mopera.net」が登録されています。その他のプロバイダや社内LANなどに接続する場合は、cid2、4～10に接続先（APN）を登録してください。

- 接続先（APN）については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 接続先の設定は、パケット通信用の電話帳登録と考えられます。接続先の設定項目をFOMA端末電話帳と比較すると、次のようになります。

接続先の設定項目	FOMA 端末電話帳の登録項目
登録番号（cid）	登録番号（メモリ番号）
APN	相手の電話番号

- 登録したcidはダイヤルアップ接続設定での接続番号となります。

発信者番号の通知／非通知を設定する

発信者番号はお客様の大切な情報なので、通知する際には十分にご注意ください。

- mopera U / moperaをご利用になる場合は、「通知」に設定します。

お買い上げ時 設定なし

例 Windows XP の場合

1 「パケット通信の接続先（APN）を設定する」の操作 1 ～ 5 を行う ☛P17

2 パケット通信時の発信者番号の通知（186）／非通知（184）を設定

「AT ＊ DGPIR=＜ n ＞」の形式で入力します。

AT ＊ DGPIR=1↵
パケット通信確立時、接続先（APN）に「184」を付けて接続します。

AT ＊ DGPIR=2↵
パケット通信確立時、接続先（APN）に「186」を付けて接続します。

■ ATコマンドを入力しても画面に表示されないとき：ATE1↵
- 詳細 ☛P27

3 「OK」と表示されていることを確認し、［ファイル］→「ハイパーターミナルの終了」をクリック

- 「現在、接続されています。切断してもよろしいですか？」の表示後に［はい］をクリックします。
- 「“XXX”と名前付けされた接続を保存しますか?」の表示後に［いいえ］をクリックします。

■ ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について

ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に「186」（通知）／「184」（非通知）を付けられます。
AT＊DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で「186」（通知）／「184」（非通知）の設定を行った場合、発信者番号の通知／非通知は次のようになります。

AT＊DGPIRコマンドによる通知／非通知設定 ＼ ダイヤルアップネットワークの設定（<cid>=3の場合）	設定なし	非通知	通知
＊99＊＊＊3#	通知	非通知	通知
184＊99＊＊＊3#	非通知		
186＊99＊＊＊3#	通知		

• AT＊DGPIRコマンドによる通知／非通知設定を「設定なし」に戻すには、「AT＊DGPIR=0」と入力してください。

Windows XPで設定する

接続先を設定する

1 ［スタート］→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

2 「ネットワークタスク」の「新しい接続を作成する」をクリック

「新しい接続ウィザード」画面が表示されます。

3 ［次へ］をクリック

ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

4 「インターネットに接続する」を選択▶［次へ］をクリック

準備画面が表示されます。

5 「接続を手動でセットアップする」を選択▶［次へ］をクリック

インターネット接続画面が表示されます。

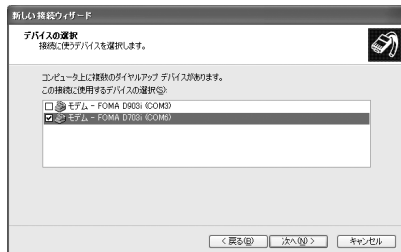
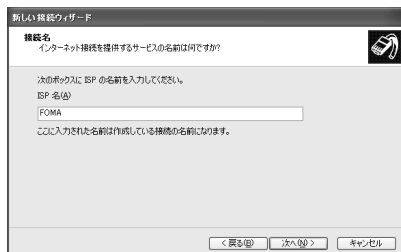
6 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択▶［次へ］をクリック

デバイスの選択画面が表示されます。

• インストールされているモデムが1台しかない場合、デバイスの選択画面は表示されません。操作8へ進みます。

7 「モデム－FOMA D703i（COMx）※1」を選択▶［次へ］をクリック

• 「モデム－FOMA D703i（COMx）※1」のみチェックが入っていることを確認してください。

※1：COMxのxはお使いのパソコンによって異なります。

8 「ISP名」に任意の接続名を入力▶［次へ］をクリック

9 「電話番号」に接続先の番号（半角）を入力▶［次へ］をクリック

■ パケット通信の場合：

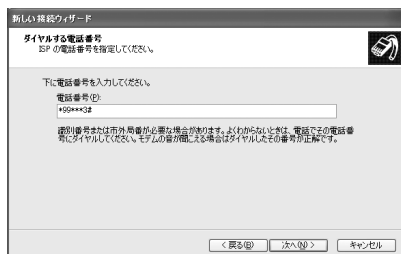
＊99＊＊＊＜cid＞＃を入力します。

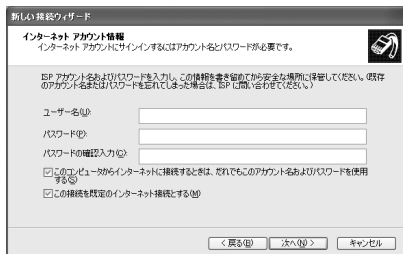
• <cid>には、「パケット通信の接続先（APN）を設定する」（☛P17）で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3＃、moperaは＊99＊＊＊1＃となります。

■ 64Kデータ通信の場合：

接続先の電話番号を入力します。

• mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。

つづく▶

10 各項目を設定 ▶［次へ］をクリック

- 接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」「パスワードの確認入力」については空欄でも接続できます。他の項目は必要に応じて設定します。

11 ［完了］をクリック

12 設定内容を確認して［キャンセル］をクリック

- ここではすぐに接続せずに、設定の確認だけを行います。

TCP/IP プロトコルを設定する

1 作成した接続先を選択 ▶「ファイル」→「プロパティ」をクリック

2 ［全般］タブの各項目の設定を確認

- 複数のモデムがインストールされている場合は、「接続方法」の「モデム－ FOMA D703i (COMx) ※1」を選択します。
- 「モデム－FOMA D703i (COMx) ※1」のみチェックが入っていることを確認してください。

※1：COMx の x はお使いのパソコンによって異なります。

- 「ダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。

3 ［ネットワーク］タブをクリック ▶ 各項目の設定を確認

- 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」は「PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet」に設定します。
- 「この接続は次の項目を使用します」は、「インターネット プロトコル（TCP/IP）」だけを選択します。「QoS パケットスケジューラ」は変更できませんので、そのままにしてください。

4 ［設定］をクリック

つづく▶

5 **すべての項目を非選択（□）にして［OK］をクリック**

接続先のプロパティ画面に戻ります。

6 **［OK］をクリック**

Windows 2000で設定する

接続先を設定する

1 **［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリック**

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

2 **［新しい接続の作成］をダブルクリック**

「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されます。

3 **［次へ］をクリック**

ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

4 **「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択▶［次へ］をクリック**

「インターネット接続ウィザード」の開始画面が表示されます。

5 **「インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」を選択▶［次へ］をクリック**

インターネット接続の設定選択画面が表示されます。

6 **「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択▶［次へ］をクリック**

モデムの選択画面が表示されます。

- 複数のモデムがインストールされていない場合、この画面は表示されません。操作8に進みます。

7 **「インターネットへの接続に使うモデムを選択する」が「FOMA D703i」に設定されていることを確認して［次へ］をクリック**

インターネットアカウントの接続情報画面が表示されます。

- 「FOMA D703i」に設定されていない場合は、「FOMA D703i」に設定してください。

8 **「電話番号」に接続先の番号（半角）を入力▶［詳細設定］をクリック**

- 「市外局番とダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。

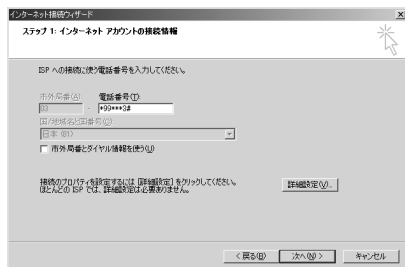
■ **パケット通信の場合：**

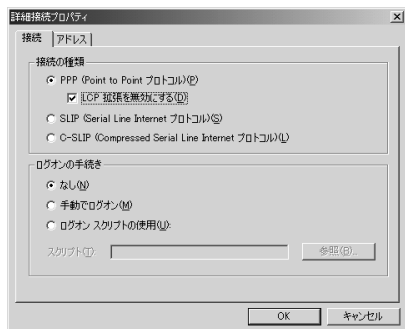
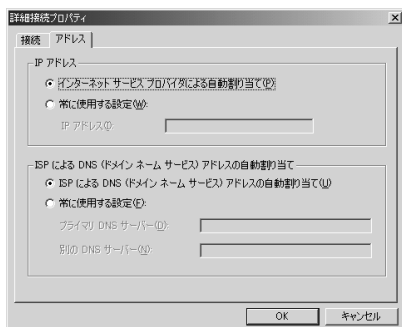
＊99＊＊＊< cid >#を入力します。

- <cid>には、「パケット通信の接続先(APN)を設定する」（☛P17）で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3#、moperaは＊99＊＊＊1#となります。

■ **64Kデータ通信の場合：**

接続先の電話番号を入力します。

- mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。

9 **［接続］タブの各項目を以下のように設定**

つづく▶

10 ［アドレス］タブをクリック ▶ 各項目を以下のように設定

11 ［OK］をクリック

インターネットアカウントの接続情報画面に戻ります。

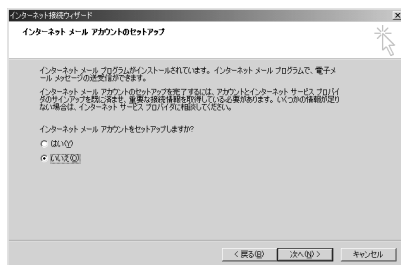
12 ［次へ］をクリック

インターネットアカウントのログオン情報画面が表示されます。

13 「ユーザー名」と「パスワード」を入力 ▶ ［次へ］をクリック

- 接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。入力されていないことを確認する画面が表示されたら、［はい］をクリックします。

14 「接続名」に任意の接続名を入力 ▶ ［次へ］をクリック

15 「いいえ」を選択 ▶ ［次へ］をクリック

16 ［完了］をクリック

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面に戻ります。

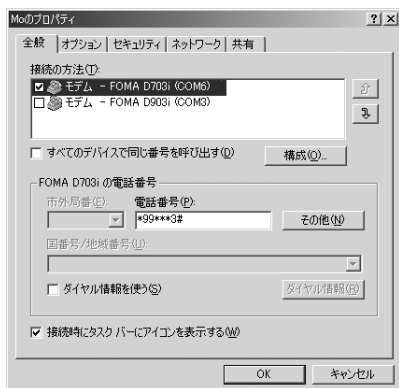
TCP/IP プロトコルを設定する

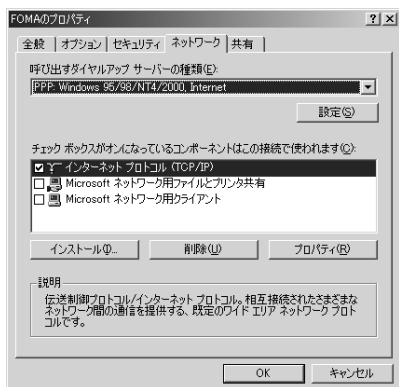
1 作成した接続先アイコンを選択 ▶「ファイル」→「プロパティ」をクリック

2 ［全般］タブの各項目の設定を確認

- 複数のモデムがインストールされている場合は、「接続の方法」の「モデム－ FOMA D703i（COMx）※1」を選択します。
  モデムを変更した場合は、「電話番号」の各項目が初期化されますので、再度接続先電話番号を入力してください。
- 「モデム－ FOMA D703i （COMx）※1」のみチェックが入っていることを確認してください。
  ※1：COMx の x はお使いのパソコンによって異なります。

つづく▶

• 「ダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。

3 ［ネットワーク］タブをクリック ▶ 各項目の設定を確認

• 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」は「PPP: Windows 95/98/NT4/2000, Internet」に設定します。
• コンポーネントは「インターネット プロトコル（TCP/IP）」だけを選択します。

4 ［設定］をクリック

5 すべての項目を非選択（□）にして［OK］をクリック

接続先のプロパティ画面に戻ります。

6 ［OK］をクリック

ダイヤルアップ接続する

パケット通信／64Kデータ通信のダイヤルアップ接続を行う方法について説明します。

例 Windows XP の場合

1 FOMA 端末とパソコンを接続する ☞P4

2 ［スタート］→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

■ Windows 2000 の場合：
① ［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリック

3 接続先をダブルクリック

4 各項目を確認して［ダイヤル］をクリック

• 「ダイヤル」または「電話番号」には、ダイヤルアップネットワークに設定した接続先の番号が表示されます。
• 接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でも接続できます。

つづく▶

通信を切断するには

ブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作を行ってください。

1 タスクトレイの をクリック

2 ［切断］をクリック

AT コマンド

ATコマンドとは、パソコンでFOMA端末の各機能を設定するためのコマンド（命令）です。
FOMA端末は、ATコマンドに準拠しさらに拡張コマンドの一部や独自の AT コマンドをサポートしています。

AT コマンドについて

■ AT コマンドの入力形式

AT コマンドは、コマンドの先頭に「AT」を付けて入力します。半角英数字で入力してください。
次に入力例を示します。

ATD ＊ 99 ＊＊＊ 3#⏎

コマンド　パラメータ　Enter キーを押します

AT コマンドはコマンドに続くパラメータ（数字や記号）を含めて、1 行で入力します。1 行とは最初の文字から⏎を押した直前までの文字のことで、160 文字（「AT」含む）まで入力できます。

■ AT コマンドの入力モード

AT コマンドで FOMA 端末を操作する場合は、パソコンをターミナルモードにしてください。
ターミナルモードとは、パソコンを 1 台の通信端末（ターミナル）のように動作させるモードです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている機器や回線に送られます。

- オフラインモード
  FOMA端末が待受の状態です。通常ATコマンドでFOMA端末を操作する場合は、この状態で行います。
- オンラインデータモード
  FOMA 端末が通信中の状態です。この状態のときにATコマンドを入力すると、送られてきた文字をそのまま通信先に送信して、通信先のモデムを誤動作させることがあります。通信中はATコマンドを入力しないでください。
- オンラインコマンドモード
  FOMA端末が通信中の状態でも、ATコマンドで FOMA 端末を操作できる状態です。その場合、通信先との接続を維持したまま AT コマンドを実行し、終了すると再び通信を続けられます。

オンラインデータモードとオンラインコマンドモードを切り替える

FOMA 端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えるには、次の方法があります。

- 「+++」コマンドまたは「S2」レジスタに設定したコードを入力します。
- 「AT&D1」に設定されているときに、RS-232C※1 のER信号をOFFにします。

オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに切り替えるには、「ATO⏎」と入力します。

※ 1：USB インタフェースにより、RS-232C の信号線がエミュレートされていますので、通信アプリケーションによる RS-232C の信号線制御が有効になります。

AT コマンド一覧

- AT コマンド入力時に、使用している PC や通信ソフトのフォント設定により、「¥」を入力しても「\」と表示される場合があります。
- FOMA端末の電源を切らずに電池パックを取り外した場合、設定値が記録されないことがあります。
- ここで説明するのは FOMA D703i Modem Port で使用できる AT コマンドです。

※ 1　：AT&F コマンドで設定が初期化されます。
※ 2　：AT&W コマンドで FOMA 端末に記憶でき、ATZ コマンドで復元できます。
「なし」：表示コマンド、テストコマンドがない AT コマンドです。
[　]　：省略できるパラメータです。

コマンド	概要・パラメータ						
AT%V	FOMA 端末のバージョンを「Verx.xx」の形式で表示します。						
	例	設定	AT%V	表示	なし	テスト	なし
AT&C[n]	DTE への回路 CD 信号の動作条件を選択します。 n=0: 回路 CD 信号を常に ON にします。（パラメータ省略時） n=1: 回路 CD 信号は相手モデムの状態に従って変化します。（お買い上げ時）						
※ 1、※ 2	例	設定	AT&C1	表示	なし	テスト	なし
AT&D[n]	オンラインデータモードの場合に、DTE から受け取る回路 ER 信号が ON から OFF に変わったときの動作を設定します。 n=0:ER 信号の状態を無視します（常に ON）。（パラメータ省略時） n=1:ER 信号が ON から OFF に変わるとオンラインコマンドモードになります。 n=2:ER 信号が ON から OFF に変わると回線を切断し、オフラインモードになります。（お買い上げ時）						
※ 1、※ 2	例	設定	AT&D1	表示	なし	テスト	なし
AT&E[n]	接続時の速度表示仕様を選択します。 ATX コマンドが n=0 以外の場合に有効です。 n=0：無線区間通信速度を表示します。 n=1：パソコンと FOMA 端末間の通信速度を表示します。(お買い上げ時)						
※ 1、※ 2	例	設定	AT&E1	表示	なし	テスト	なし
AT&F[0]	FOMA 端末をお買い上げ時の状態に戻します。着信中に実行すると、着信には影響を与えずに、FOMA 端末をお買い上げ時の状態に戻します。通信中は通信を切断（「NO CARRIER」を表示）してからお買い上げ時の状態に戻します。						
	例	設定	AT&F0	表示	なし	テスト	なし
AT&S[n]	FOMA 端末の出力する DR 信号の制御を設定します。 n=0: 常に ON にします。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1: 回線接続時に DR 信号を ON にします。						
※ 1、※ 2	例	設定	AT&S0	表示	なし	テスト	なし
AT&W[0]	現在の設定値を FOMA 端末に書き込みます。						
	例	設定	AT&W0	表示	なし	テスト	なし
AT＊DANTE	電波の強さ（受信レベル）を「＊DANTE:m」の形式で表示します。 m=0: 圏外　m=1 ～ 3:FOMA 端末に表示されるアンテナの本数（m=1:0 本または 1 本)。						
	例	設定	AT＊DANTE	表示	AT＊DANTE?	テスト	AT＊DANTE=?
AT＊DGANSM=n	パケット着信呼に対して、着信拒否、着信許可を設定します。 n=0: 着信拒否設定と着信許可設定を OFF にします。（お買い上げ時） n=1: 着信拒否設定を ON にします。　n=2: 着信許可設定を ON にします。						
	例	設定	AT＊DGANSM=0	表示	AT＊DGANSM?	テスト	AT＊DGANSM=?
AT＊DGAPL=n[,cid]	パケット着信呼に対して、着信を許可する接続先 (APN) を設定します。APN は「+CGDCONT」で定義された cid パラメータを使用します。 n=0:cid で定義された APN を着信許可リストへ追加します。 n=1:cid で定義された APN を着信許可リストから削除します。 cid パラメータを省略すると、すべての cid を追加または削除します。						
	例	設定	AT＊DGAPL=0,1	表示	AT＊DGAPL?	テスト	AT＊DGAPL=?
AT＊DGARL=n[,cid]	パケット着信呼に対して、着信を拒否する接続先 (APN) を設定します。APN は「+CGDCONT」で定義された cid パラメータを使用します。 n=0:cid で定義された APN を着信拒否リストへ追加します。 n=1:cid で定義された APN を着信拒否リストから削除します。 cid パラメータを省略すると、すべての cid を追加または削除します。						
	例	設定	AT＊DGARL=0,1	表示	AT＊DGARL?	テスト	AT＊DGARL=?

つづく▶

コマンド	概要・パラメータ
AT＊DGPIR=n	パケット通信時の番号通知、非通知を設定します。発信時、着信時に有効です。 n=0: パケット通信確立時に、APN をそのまま使用します。（お買い上げ時） n=1: パケット通信確立時に、APN に「184」を付けます。 n=2: パケット通信確立時に、APN に「186」を付けます。
例	設定 AT＊DGPIR=0 ／ 表示 AT＊DGPIR? ／ テスト AT＊DGPIR=?
AT＊DRPW	受信電力指標を「＊DRPW:m」の形式で表示します。m:0 ～ 75
例	設定 AT＊DRPW ／ 表示 なし ／ テスト AT＊DRPW=?
+++	FOMA 端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えます。エスケープガード区間は、1 秒間の固定です。
例	設定 +++ ／ 表示 なし ／ テスト なし
AT+CEER	直前の通信の切断理由を表示します。☛P29
例	設定 AT+CEER ／ 表示 なし ／ テスト AT+CEER=?
AT+CGDCONT	パケット通信時の接続先 (APN) を設定します。☛P29
AT+CGEQMIN	パケット通信確立時に、ネットワーク側から通知される QoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準を登録します。☛P29
AT+CGEQREQ	パケット通信の発信時にネットワークへ要求する QoS（サービス品質）を設定します。☛P30
AT+CGMR	FOMA 端末のバージョンを 16 桁の数字で表示します。
例	設定 AT+CGMR ／ 表示 なし ／ テスト AT+CGMR=?
AT+CGREG=[n]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。通知される内容は、圏内または圏外です。 n=0: 通知しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1: 通知します。「+CGREG:n,stat」の形式で通知されます。 stat=0: 圏外　stat=1: 圏内 (home)　stat=4: 不明　stat=5: 圏内 (visitor)
※1、※2　例	設定 AT+CGREG=1 ／ 表示 AT+CGREG? ／ テスト AT+CGREG=?
AT+CGSN	FOMA 端末の製造番号を表示します。
例	設定 AT+CGSN ／ 表示 なし ／ テスト AT+CGSN=?
AT+CLIP=[n]	64K データ通信の着信時に、相手の発信者番号をパソコンに表示します。 n=0: 表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1: 表示します。 AT+CLIP? を入力すると、「+CLIP:n,m」が表示されます。 m=0: 発信時に相手に発信者番号を通知しないネットワーク設定 m=1: 発信時に相手に発信者番号を通知するネットワーク設定　m=2: 不明
※1、※2　例	設定 AT+CLIP=0 ／ 表示 AT+CLIP? ／ テスト AT+CLIP=?
AT+CLIR=[n]	64K データ通信の発信時に、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。 n=0: サービス契約の設定に従います。（パラメータ省略時）　n=1: 通知しません。 n=2: 通知します。（お買い上げ時） AT+CLIR? を入力すると、「+CLIR:n,m」を表示します。 m=0:CLIR が起動していません。（常時通知）　m=1:CLIR が起動しています。（常時非通知） m=2: 不明　m=3:CLIR テンポラリーモード（非通知デフォルト） m=4:CLIR テンポラリーモード（通知デフォルト）
例	設定 AT+CLIR=0 ／ 表示 AT+CLIR? ／ テスト AT+CLIR=?
AT+CMEE=[n]	FOMA 端末のエラーレポートの形式を設定します。☛P29 n=0:「ERROR」を表示します。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:「+CME ERROR：xxxx」の形式（xxxx は数字）で表示します。 n=2:「+CME ERROR：xxxx」の形式（xxxx は文字）で表示します。
※1、※2　例	設定 AT+CMEE=0 ／ 表示 AT+CMEE? ／ テスト AT+CMEE=?
AT+CNUM	FOMA 端末の自局番号を表示します。「+CNUM:, “number”,type」の形式で表示します。 number: 電話番号 type=129:「+81」を表示しません。　type=145:「+81」を表示します。
例	設定 AT+CNUM ／ 表示 なし ／ テスト AT+CNUM=?
AT+CR=[n]	回線接続時に「CONNECT」が表示される前に、通信の種別（パケット通信または 64K データ通信）を表示するかどうかを設定します。 n=0: 表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1: 表示します。「+CR:serv」の形式で表示します。 serv=SYNC:64K データ通信　serv=GPRS: パケット通信
※1、※2　例	設定 AT+CR=0 ／ 表示 AT+CR? ／ テスト AT+CR=?
AT+CRC=[n]	着信時に +CRING:type のリザルトコードを使用するかどうかを設定します。 n=0:+CRING:type のリザルトコードを使用しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:+CRING:type のリザルトコードを使用します。応答例は以下のとおりです。 パケット通信　… +CRING:GPRS “PPP”,,, “mopera.net” 64K データ通信… +CRING:SYNC
※1、※2　例	設定 AT+CRC=0 ／ 表示 AT+CRC? ／ テスト AT+CRC=?

つづく▶

コマンド		概要・パラメータ					
AT+CREG=[n]		圏内／圏外情報を表示するかどうかを設定します。 n=0: 表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時）　n=1: 表示します。 AT+CREG? を入力すると、「+CREG:n,stat」の形式で表示します。 stat=0: 圏外　stat=1: 圏内 (home)　stat=4: 不明　stat=5: 圏内 (visitor)					
※1、※2	例	設定	AT+CREG=0	表示	AT+CREG?	テスト	AT+CREG=?
AT+GMI		FOMA 端末の製造会社名を表示します。					
	例	設定	AT+GMI	表示	なし	テスト	AT+GMI=?
AT+GMM		FOMA 端末名を表示します。					
	例	設定	AT+GMM	表示	なし	テスト	AT+GMM=?
AT+GMR		FOMA 端末のバージョンを表示します。					
	例	設定	AT+GMR	表示	なし	テスト	AT+GMR=?
AT+IFC=[n,[m]]		パソコンと FOMA 端末間のローカルフロー制御方式を設定します。 n は DCE by DTE の制御を設定します。 n=0: フロー制御しません。　n=1:XON/XOFF フロー制御します。 n=2:RS/CS(RTS/CTS) フロー制御します。（お買い上げ時） m は DTE by DCE の制御を設定します。省略すると DCE by DTE と同じ入力値になります。 m=0: フロー制御しません。　m=1:XON/XOFF フロー制御します。 m=2:RS/CS(RTS/CTS) フロー制御します。（お買い上げ時） パラメータをすべて省略すると、AT+IFC=2,2 になります。					
※1、※2	例	設定	AT+IFC=2,2	表示	AT+IFC?	テスト	AT+IFC=?
AT+WS46=[22]		発信時に FOMA 端末が使用する無線ネットワークを設定します。					
※1、※2	例	設定	AT+WS46=22	表示	AT+WS46?	テスト	AT+WS46=?
ATA		パケット通信、64K データ通信の着信時に着信処理をします。パケット着信中には次のコマンドが入力できます。 ATA184: 発信者番号通知なし着信　ATA186: 発信者番号通知あり着信					
	例	設定	ATA	表示	なし	テスト	なし
A/		直前に実行したコマンドを再実行します。					
	例	設定	A/	表示	なし	テスト	なし
ATD		パケット通信または 64K データ通信の発信をします。 ・パケット通信…「ATD ＊ 99 ＊＊＊ cid#」の形式で入力します。cid パラメータを省略すると、cid=1 になります。 「ATD184 ＊ 99」で始まる形式で入力した場合、指定した cid パラメータの APN に対して 184（発信者番号通知なし）が付加されます（186 でも同様です）。 ・64K データ通信…「ATD 電話番号」の形式で入力します。 ・リダイヤル発信…「ATDL」または「ATDN」の形式で入力します。					
	例	設定	ATD 電話番号	表示	なし	テスト	なし
ATE[n]		パソコンから送信された文字をエコーバックします。 n=0: エコーバックしません。（パラメータ省略時） n=1: エコーバックします。（お買い上げ時）					
※1、※2	例	設定	ATE0	表示	なし	テスト	なし
ATH		通信を切断します。					
	例	設定	ATH	表示	なし	テスト	なし
ATI[n]		認識コードを表示します。 n=0:「NTT DoCoMo」と表示します。（パラメータ省略時） n=1:FOMA 端末の機種名を表示します。　n=2:FOMA 端末のバージョンを表示します。					
	例	設定	ATI0	表示	なし	テスト	なし
ATO		オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに移行します。					
	例	設定	ATO	表示	なし	テスト	なし
ATQ[n]		パソコンにリザルトコードを表示するかどうかを設定します。 n=0: リザルトコードを表示します。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1: リザルトコードを表示しません。					
※1、※2	例	設定	ATQ0	表示	なし	テスト	なし
ATV[n]		リザルトコードの表示方法を設定します。 n=0: 数字で表示します。（パラメータ省略時） n=1: 文字で表示します。（お買い上げ時）					
※1、※2	例	設定	ATV1	表示	なし	テスト	なし

つづく▶

コマンド		概要・パラメータ					
ATX[n]		ビジートーン検出、ダイヤルトーン検出、通信速度表示を設定します。 n=0: ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示なし。(パラメータ省略時) n=1: ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示あり。 n=2: ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出あり、通信速度表示あり。 n=3: ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示あり。 n=4: ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出あり、通信速度表示あり。(お買い上げ時)					
※ 1、※ 2	例	設定	ATX1	表示	なし	テスト	なし
ATZ		FOMA 端末の設定を AT&W で記憶させた不揮発メモリの内容に復元します。パケット通信または 64K データ通信の着信中に入力したときは、着信には影響を与えずに復元します。通信中に入力すると、通信を切断してから復元します。					
	例	設定	ATZ	表示	なし	テスト	なし
ATS0=[n]		FOMA 端末で自動着信するまでの呼出 (RING) 回数を設定します。 n=0: 自動着信しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時) n=1 ～ 255					
※ 1、※ 2	例	設定	ATS0=0	表示	ATS0?	テスト	なし
ATS2=[n]		エスケープキャラクタを設定します。 n=0 ～ 127 (43: お買い上げ時、0: パラメータ省略時、127: エスケープ処理を無効にする)					
※ 1	例	設定	ATS2=43	表示	ATS2?	テスト	なし
ATS3=[13]		AT コマンドの文字列の最後を認識する復帰 (CR) キャラクタを設定します (設定値は変更できません)。エコーバックされたコマンド文字列とリザルトコードの最後に付けられます。					
※ 1	例	設定	ATS3=13	表示	ATS3?	テスト	なし
ATS4=[10]		改行 (LF) キャラクタの設定をします (設定値は変更できません)。英文字でリザルトコードを表示する場合に、復帰 (CR) キャラクタの次に付けられます。					
※ 1	例	設定	ATS4=10	表示	ATS4?	テスト	なし
ATS5=[8]		AT コマンド入力中に、入力バッファの最後のキャラクタを削除するバックスペース (BS) キャラクタを設定します (設定値は変更できません)。					
※ 1	例	設定	ATS5=8	表示	ATS5?	テスト	なし
ATS6=[n]		ダイヤルするまでのポーズ時間を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、動作しません。 n=2 ～ 10:単位は秒。(5: お買い上げ時、パラメータ省略時)					
※ 1	例	設定	ATS6=5	表示	ATS6?	テスト	なし
ATS8=[n]		カンマダイヤル機能 (ポーズ時間) を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、ポーズ時間は 3 秒で固定です。 n=0 ～ 255:単位は秒。(3: お買い上げ時、0: パラメータ省略時)					
※ 1	例	設定	ATS8=3	表示	ATS8?	テスト	なし
ATS10=[n]		自動切断までの遅延時間を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、動作しません。 n=1 ～ 255:単位は 1/10 秒。(1: お買い上げ時、パラメータ省略時)					
※ 1、※ 2	例	設定	ATS10=1	表示	ATS10?	テスト	なし
ATS30=[n]		データ転送がなかった場合、通信を切断するまでの時間を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=1 ～ 255: 単位は分。 n=0: 切断しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時)					
※ 1	例	設定	ATS30=0	表示	ATS30?	テスト	なし
ATS103=[n]		着サブアドレスを付けて発信するときの区切りに使う記号を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=0: * (パラメータ省略時) n=1:/ (お買い上げ時) n=2:¥					
※ 1	例	設定	ATS103=0	表示	ATS103?	テスト	なし
ATS104=[n]		発サブアドレスを付けて発信するときの区切りに使う記号を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=0:# (パラメータ省略時) n=1:% (お買い上げ時) n=2:&					
※ 1	例	設定	ATS104=0	表示	ATS104?	テスト	なし
AT¥S		コマンドの設定内容と S レジスタを表示します。					
	例	設定	AT¥S	表示	なし	テスト	なし
AT¥V[n]		接続時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを選択します。 ATX コマンドのパラメータが n=1 ～ 4 の場合に有効です。 n=0: 拡張リザルトコードを使用しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時) n=1: 拡張リザルトコードを使用します。					
※ 1、※ 2	例	設定	AT¥V0	表示	なし	テスト	なし

切断理由一覧

■ パケット通信

値	理 由
27	APN が存在しない、または正しくありません。
30	ネットワークによって切断されました。
33	パケット通信の契約がされていません。
36	正常に切断されました。

■ 64K データ通信

値	理 由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手を呼び出しましたが応答がありません。
21	相手側が着信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない処理速度を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信した、または着信を受けました。

エラーレポート一覧

数字表示	文字表示	理 由
10	SIM not inserted	FOMAカードがセットされていません。
15	SIM wrong	FOMAカード以外のSIM(FOMAカードに相当するICカード) が挿入されています。
16	incorrect password	パスワードが間違っています。
100	unknown	不明なエラーです。

AT コマンドの補足説明

■ コマンド名：AT+CGDCONT= [パラメータ]

パケット発信時の接続先（APN）を設定します。

書式

AT+CGDCONT = [< cid > [, "PPP" [, " < APN > "]]]

パラメータ説明

< cid > : 1 ～ 10

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が登録されています。

< APN > : 任意

実行例

「abc」という APN 名を登録する場合のコマンド（< cid > =2 の場合）

AT+CGDCONT=2, "PPP", "abc"

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGDCONT=

すべての< cid >の設定をクリアします。ただし、「< cid > =1」と「< cid > =3」の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT= < cid >

指定された< cid >の設定をクリアします。ただし、「< cid > =1」と「< cid > =3」の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT=？

設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGDCONT？

現在の設定値を表示します。

■ コマンド名：AT+CGEQMIN=[パラメータ]

PPP パケット通信確立時にネットワーク側から通知される QoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。

書式

AT+CGEQMIN=[< cid > [, , < Maximum bitrate UL > [, < Maximum bitrate DL >]]]

パラメータ説明

< cid > : 1 ～ 10

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が登録されています。

< Maximum bitrate UL > : なしまたは 64

< Maximum bitrate DL > : なしまたは 384

「Maximum bitrate UL」および「Maximum bitrate DL」では、FOMA 端末と基地局間の上りおよび下りの最低通信速度（kbps）を設定します。「なし（お買い上げ時）」に設定した場合は、すべての速度を許容しますが、「64」および「384」を設定した場合、これらの速度未満の接続は許容されないため、パケット通信が接続されない場合がありますのでご注意ください。

実行例

(1)上り／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（< cid > =2 の場合）
AT+CGEQMIN=2

(2)上り 64kbps ／下り 384kbps の速度のみ許容する場合のコマンド（< cid > =4 の場合）
AT+CGEQMIN=4,,64,384

(3)上り 64kbps ／下りすべての速度のみ許容する場合のコマンド（< cid > =5 の場合）
AT+CGEQMIN=5,,64

(4)上りすべての速度／下り 384kbps の速度のみ許容する場合のコマンド（< cid > =6 の場合）
AT+CGEQMIN=6,,,384

つづく▶

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQMIN=
　すべての< cid >の設定をクリアします。

AT+CGEQMIN= < cid >
　指定された< cid >をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQMIN=？
　設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGEQMIN？
　現在の設定を表示します。

■ コマンド名：AT+CGEQREQ=［パラメータ］

PPP パケット通信の発信時にネットワークへ要求する QoS（サービス品質）を設定します。

書式

AT+CGEQREQ=[< cid >]

パラメータ説明

上り 64kbps ／下り 384kbps の速度で接続を要求するコマンドのみ設定可能です。各 cid にはその内容がお買い上げ時に設定されています。
< cid >：1 ～ 10
　お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3には「mopera.net」が登録されています。

実行例

（< cid > =2 の場合）
AT+CGEQREQ=2

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQREQ=
　すべての< cid >をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQREQ= < cid >
　指定された< cid >をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQREQ=？
　設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGEQREQ？
　現在の設定を表示します。

リザルトコード

• ATV［n］コマンド（☞P27）が n=1 に設定されている場合には文字表示（初期値）、n=0 に設定されている場合には数字表示でリザルトコードが表示されます。

■ リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手と接続しました。
2	RING	着信が来ています。
3	NO CARRIER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受付られません。
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません。
7	BUSY	話中音の検出中です。
8	NO ANSWER	接続完了タイムアウトしました。
100	RESTRICTION	通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。
101	DELAYED	リダイヤル発信規制中です。

■ 拡張リザルトコード

数字表示	文字表示	FOMA端末－パソコン間の接続速度
5	CONNECT 1200	1200bps
10	CONNECT 2400	2400bps
11	CONNECT 4800	4800bps
13	CONNECT 7200	7200bps
12	CONNECT 9600	9600bps
15	CONNECT 14400	14400bps
16	CONNECT 19200	19200bps
17	CONNECT 38400	38400bps
18	CONNECT 57600	57600bps
19	CONNECT 115200	115200bps
20	CONNECT 230400	230400bps
21	CONNECT 460800	460800bps

おしらせ

● 従来のRS-232Cで接続するモデムとのパソコンでの処理上の互換性を保つため通信速度の表示はしますが、FOMA端末－PC間はFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続されているため、実際の接続速度と異なります。

つづく▶

■ 通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	64K データ通信で接続
2	AV32K	AV（テレビ電話）［32K］で接続
3	AV64K	AV（テレビ電話）［64K］で接続
5	PACKET	パケット通信で接続

■ リザルトコード表示例

ATX 0 が設定されている場合

AT¥V コマンド（☛P28）の設定に関わらず、接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。

文字表示例：ATD ＊ 99 ＊＊＊ 3#
CONNECT（数字表示の場合は「1」）

ATX 1 が設定されている場合

- ATX1、AT¥V0が設定されている場合（初期値）
  接続完了のときに、CONNECT＜FOMA端末－PC間の速度＞の書式で表示します。

  文字表示例：ATD ＊ 99 ＊＊＊ 3#
  CONNECT 460800（数字表示の場合は「1 21」）

- ATX1、AT¥V1が設定されている場合※1
  接続完了のときに、以下のように表示します。

  文字表示例：ATD ＊ 99 ＊＊＊ 3#
  CONNECT 460800 PACKET mopera.net/64/384（数字表示の場合は「1 21 5」）

  FOMA 端末ー PC 間速度 460800bps で、mopera.net に、上り最大 64kbps、下り最大 384kbps で接続したことを表します。

※ 1：ATX1、AT¥V1 を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しくできない場合があります。
ATX1、AT¥V0 を設定した状態（初期値）でのご利用をおすすめします。